

巻 頭 言



昭和 34 年 を 迎 え て

会 長 塩 沢 正 一

謹んで新年の御祝詞を申し上げ、会員各位の御多幸を祈る。

わが鉄鋼業は終戦直後虚脱状態にあり前途を悲観したが、昭和21年12月傾斜生産方式がとられ、復金融資と補給金の二つの支持を得て、再建の第一歩をふみだした。その後一時所謂神武景気に恵まれたが、金融引締めにより短時日にして不況沈滞の傾向を辿つた。昨秋以来世界状況の好転に伴い、わが鉄鋼業も漸次立直りの機運にあるが、わが国の情勢たるや変遷きわまりなく全く荆棘の道を辿つている。しかし官民一体の努力により昭和21年に銑鉄僅か20万屯、粗鋼90万屯を生産し、世界の第16位にあつたわが国が、夢想だにもすることが出来ない程急速に立直り、昭和32年には、銑鉄680万屯、粗鋼1257万屯を生産し、世界の第6位に達した。なお昭和33年度鉄鋼生産高を見るに、上半期の銑鉄生産高347万屯、粗鋼602万屯におよび、通産省の昭和33年度鉄鋼生産見通しを上廻り、また10月には鉄鋼輸出高が数年ぶりに20万屯を突破する等、めざましく発展したことは、御同慶に堪えないところである。しかしながらわが国の経済事情は、欧米のそれに左右されるところ多く、鉄鋼業もその例にもれず、大きな影響を受けている。従つて頗る不安定な情態にあり、急転直下再び不況に落入らぬとも限らない。幸にして第二次合理化計画も着々として進んでいるが、その前には経済面、技術面等に幾多の重大問題が横たわり、また国際間の競争一層激甚になると思うと、前途決して楽観を許すことが出来ない。ここに設備の合理化、生産力の増大優秀製品の低価供給等を目途とする技術的研究を益々必要とするのである。この目途達成に向い今後とも官民一体となり、鉄鋼に関する学術技術の向上進歩に一段の努力を払い、もつてわが国産業の基礎である鉄鋼業の堅実な発展のため貢献せられんことを切望する次第である。

本協会も創立45年を迎え、会員諸君の御協力と関係方面各位の御支援により年々隆盛に向い、講演会研究会等活潑に活動していることを、この機会に報告し、また今後の運営方針を述べ、御批判を乞いたい。

1. 講演会 春秋2回の定期講演会のほか、技術指導に来朝された Mr. W. B. Wallis, Dr. E. C. Bain, Dr. Franz Wever 等の特別講演を開催したところ、会員諸君に大なる感銘を与えたので、今後も機会あるごとにこの催を行い、海外における製鉄業、研究等の実情を把握し、同時に交友関係を一層密にしたい。
2. 会誌 技術資料、講義、抄録等の各欄を強化すると共に内容を豊富にして、会員諸君の御要望に副うことに努める。
3. 英文アブストラクト Tetsu-to-Hagané Abstracts は印刷所の都合により遅延したが、第6号

(1956分) を昨年 11 月発行した。引続いて第 7 号および第 8 号を発行するが、本アブストラクトは、わが国鉄鋼技術の海外への紹介に役立つこと極めて大で多大の好評を博している。

4. 鉄鋼技術共同研究会 従来の 7 部会のほかに、新技術開発部会を設け、鉄鉱の直接還元と真空熔解の二つを研究課題とした。各部会共熱心に研究、調査を推進し、昨年度も研究報告三巻を公にした。また調査部会においては、わが国鉄鋼業発展の大なる障害になつている製鉄原料輸送問題について調査していたが結論を得たので、昨年 7 月「鉄鋼港灣は如何にあるべきか」という報告書を作り、関係方面に意見を具申した。

5. 鉄鋼便覧 昭和 29 年発行の鉄鋼便覧は、江湖の好評を得て第 3 版第 2 刷まで発行したが、最近の鉄鋼技術の進歩めざましいものがあるので、これを改編し内容の充実を計ることとした。

6. 特別資金運営委員会 八幡製鉄渡辺記念資金および石原研究資金の運営並びに支出を審議するため特別資金運営委員会を設けた。審議の結果渡辺(義介)賞および渡辺(義介)記念賞を制定し、わが国鉄鋼業の進歩発達または、学術技術の研究に功績のあつた者に授与することにした。その第 1 回を今年の春季大会に実施する。従来の服部賞、香村賞、俵賞、渡辺賞等の表彰は技術者偏重の傾きがあつたが、この表彰は広く鉄鋼業に功績をつくした者と、その範囲を拡大した。このほか渡辺記念資金で、海外出張者への補助、優秀論文の懸賞募集、記念講演会等を行う予定である。なお石原研究資金の用途については、目下審議中であるが一日も早く具体案を提出したいと思う。

7. 俵博士記念事業 本会創立者の一人俵国一先生の御遺徳を記念するため設立することにした。事業内容については検討中であるが近い中に決定する予定につき、会員諸君の御協力と御支援を乞う。

以上協会活動の現状と、直ちに着手出来る事業について述べたに過ぎないが、歴代会長が切望するところの育英会資金の設置、大学の設備改善および研究に対する援助、学術技術の内外交流、鉄鋼会館の建設等、また石原副会長の提唱による国際的講演大会の開催(「鉄と鋼」昭和 33 年 4 月号巻頭言参照)、あるいはまた、アジア諸国の鉄鋼経営者、技術者等を招き、わが国鉄鋼業に対する認識を深からしめ、もつて技術指導、共同研究、共同事業等の推進を計る等、本協会の実施したい事業は枚挙に遑がない、ただその実現には多額の経費を要するので容易な事業ではなく、わが国の経済情勢から見れば、恐らく無謀の企との批難を受けるかも知れない。しかし会員諸君および関係方面の御協力と御支援を得れば、敢て不可能なことではないと思う。要するに所謂長期戦で理想に向い堅実に一步一步と踏しめて難事を実現せんと望むものである、

終りに臨み、会員各位の御健勝を祈り、併せて本協会の発展に対して一層の御協力と御支援を賜わらんことを御願ひします。